

切腹 日本人の責任の取り方



[切腹 日本人の責任の取り方 下载链接1](#)

著者:山本 博文

出版者:光文社

出版时间:2003-5-16

装帧:新書

isbn:9784334031992

『会津藩家世実記』『加賀藩史料』などの一級史料に散見される数多の切腹。そこから見えてきたのは、武士社会の特異なあり方と、現在もなお続く、日本人固有の「責任の取り方」であった。本書では、史料に埋もれた多くの“ハラキリ逸話”に光を当て、誇り高く潔い、しかしどこか辛くて切ないサムライの生き様を探索する。

作者介绍:

山本/博文

1957年岡山県生まれ。東京大学文学部卒業。82年、同大学院修了。文学博士。現在、東京大学史料編纂所教授。92年、『江戸お留守居役の日記』(読売新聞社)で第四十回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目录:

[切腹 日本人の責任の取り方_ダウンロード1](#)

标签

日本史

江戸

潜水

日本

日文

山本博文

外文书

评论

本书还是山本老师一贯的风格，所有事例采用的都是一次史料，读起来有真实感，非常过瘾。“君、君たらざれども、臣、臣たり”，可以说这种忠义完全是单方面的，武士对主君的忠顺基本达到了“君要臣死、臣不得不死”的地步，“君视臣如土芥，臣视君如寇仇”这种思想是从来没有过吧，江户时代是彻底的身份制社会，武士在生来就获得荣誉的同时，也不免被一种严酷的道德所束缚。在武士社会中，主君的话是绝对的，直接上司的话也代表主君，所以切腹也因上司的一念而被决定下来，这一点也被上级的武士利用，让下级的武士成为自己逃避责任的牺牲品（这方面我想到了《半泽》），因为只要有某人切腹做出牺牲，一个事件就算了结，责任到底由谁承担反而不是重点。

[切腹 日本人の責任の取り方 下载链接1](#)

书评

[切腹 日本人の責任の取り方 下载链接1](#)